

県政報告

絆

きずな

2008年新春

—— 変える勇気、守る責任 ——

新潟県議会議員

かずひろ
小林 一大



「絆」私の好きな言葉であり「人とつながりと和」を大切にしたいという気持ちを込め、県政報告書の名前とさせていただきます。

〈創刊号〉 今後年数回定期的に発行します。

■発行日
平成20年1月3日
■発行元
新潟県議会議員 小林一大事務所
〒956-0864
新潟市秋葉区新津本町2-7-10
TEL 0250-24-8339 FAX 0250-24-8328

皆様、新年明けましておめでとうございます。すばらしい、よき年をお迎えのことと思います。旧年中は、様々な場面で、皆様方の心からのご支援並びにご協力をいただきまして、改めて御礼申し上げます。本年もなにとぞよろしくお願い申し上げます。

昨年4月、皆様のお力を持って新潟県議会議員に初当選させていただきました。議員としての8ヶ月間、右も左も分からない中、初心である「未来の世代が誇れる故郷創り、旧態以前とした悪習は率先して廃し、一方で良きものは断固として守り抜く」という思いだけで、ここまでやってきました。まだまだ未熟者で、至らぬところばかりですが、これからも皆様のご指導をいただきながら、魅力ある秋葉区、新潟県への邁進のために、粉骨砕身努力をしていく所存です。

今年こそは、新潟県にとって飛躍の年としなければなりません。地方経済の疲弊、農業の停滞、教育や地域社会の崩壊など、危機が叫ばれて久しいものの、繰り返しになりますが、新潟には大いなる可能性があるとは私は信じて疑いません。県民、住民一人ひとりが、生きがいをもち、希望と誇りを胸に抱きながら暮らせるよう、政治という

世界がもっともっと真剣に議論し、夢を現実化していくべきと考えます。また、われわれの議論、考えていることを、皆様にもっとお伝えし、皆様からのお声も頂戴すべきです。

最後になりますが、皆様の今年一年のご多幸とご健勝を心からご祈念申し上げ、そして、県議会議員として私小林一大が精一杯頑張ることを決意申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。

今年1年、どうかよろしくお願い申し上げます。

小林 一大 プロフィール

・誕生日／昭和48年6月12日（34才）
・血液型／O型
・家族／妻・双子の男の子（4才）
・趣味／読書、映画鑑賞、旅行
・座右の銘／
Where there is a will, there is a way

平成 4年 新潟県立新潟高校卒業
平成 9年 東京大学 経済学部経済学科卒業
平成 9年 現・東京海上日動入社
平成14年 妻・由実と結婚
平成17年 同社を退職
平成19年 新潟県議会議員 初当選
現在 自由民主党新潟県議会議員
朝日観音普談寺 副住職
秋葉区朝日在住



平成19年9月定例会一般質問（要旨）



◎一大／知事の政治姿勢について

「新潟を日本一にする営業マンになります」という言葉のもと、数々の政策を実行に移されているが、知事自身はこの3年間を振り返りどの様に評価しているか伺うとともに、残りの任期にやり残したことや、優先的に取り組もうと考えている施策について伺う。

■知事／まず初めに、3年間の評価などについてですが、中越大地震や中越沖地震への対応をはじめ、この3年間、県民の生命、安全、財産を守ることを第一に全力で県政運営に取り組んでまいりましたが、その評価については、第三者から行っていただくことが適切と考えております。
今後の県政運営においては、被災地の復旧、復興に最優先で取り組むのはもちろんのこと、少子化対策をはじめとした人口減対策や県内産業の高付加価値化などの重点施策に、引き続き全力で取り組み、「若者が未来に希望を持ち誰もが安心して暮らせる豊かな新潟県の実現」を図ってまいりたいと考えております。

◎一大／県庁内改革等について

公務員、なかでも県庁職員は概ね大変によく働き、努力を重ね県民のことを考えていると思うが、「給与が高い、人員が多い、コスト意識がない」といった昨今の公務員批判について知事の所感を伺う。

■知事／昨今の公務員批判に対する見解についてですが、知事は、県庁を代表し、様々なご意見を承る立場であることから、公務員の給与や人員などに対するご批判に対しても、しっかりと耳を傾けていきたいと考えております。

◎一大／農林水産業問題について

農林水産業の低迷は、自然環境の破壊や農村の破壊に

よる地域コミュニティの衰退をもたらしていくものと危惧している。現在の農林水産業、とりわけ農業の低迷の主たる原因は何であるとお考えか伺う。また、知事は農林水産業の果たす多面的な役割をどの様に評価しているか伺う。

■知事／農業の低迷の原因についてであります。経済発展の中で、農業だけでは他産業並みの十分な所得が確保できず、この結果、兼業化が進むとともに、後継者が大幅に減少するなど、低迷の大きな要因になったものと考えております。
また、農林水産業の果たす多面的な役割については、安全、安心で美味しい食の安定的な提供に加え、県土の保全や水源の涵養。景観の保全やうるおいの場の提供。伝統・文化の継承などの重要な役割を担っているものと考えております。

◎一大／これからは、個々のやる気のある生産者のための農政、すなわち集団主義を排した「個の時代の到来」を支援する施策が求められていくものとする。創造力を持った農家が働きやすい、やりがいのある環境を整えることが行政の役割として極めて重要であると思うが、知事の所見を伺う。

■知事／農業者が農業に魅力を感じ、やる気を持って農業に取り組むには、他産業と遜色のない所得の確保と、努力に対して結果が出る必要があると考えております。
県といたしましては、農業者の企画・販売力のさらなる強化に向けて、ノウハウを有する外部人材の活用や、農業者が自らの農産物を販売する会社の創業への支援。食品産業との連携。経営の法人化等を推進してまいりたいと考えております。

◎一大／農林水産業を軸とした業種を超えた地域ぐるみの取組みが今求められており、様々な規制や制度の見直しが必要ではないかと考える。

例えば、農林水産業の参入障壁の撤廃、農協・商工会・建設業会など異業種団体の連携や業種にこだわらない各種公的金融の支援を実現することなど、自由な地域ビジネスの展開を支える仕組みを整備することが特に重要であると考えているが、知事の所見を伺う。

■知事／農林水産業は、世界的に見れば将来性のある産業であり、異業種との連携や新たな観点からの取組によって、地域経済の新たな展開につながる可能性を持っていると考えております。
その潜在的可能性を現実のものとしていくためには、既存の枠にとらわれることなく、必要に応じて制度を見直すことも検討すべきと考えております。

◎一大／佐渡ではいわゆる「エコアイランド」構想の取組が進められている。環境問題を世界でもっとも推進してい

る島として、官民一体となった取組を実施することで、低迷する佐渡観光の現状の打破を図るべきと考えるが、知事の所見を伺う。

■知事／環境問題への取組を活かした佐渡観光の活性化についてであります。佐渡市では、「人とトキが共に生きる島づくり」を目指す「エコアイランド」構想に基づいた取組として、佐渡の豊かな自然環境の保全や、廃棄物の不法投棄の一扫など循環型の地域社会づくりを積極的に進めております。
また、自然保護の象徴であるトキの野生復帰に向けては、島民の理解と協力を得ながら、トキが生息していた自然環境の再生や、ボランティアによる餌場整備など様々な活動を進めているところです。
人と自然が調和しながら暮らす島・佐渡のイメージを観光誘客に活かしていくことは、佐渡観光の活性化に有効であることから、今後とも、地元の取組をサポートしてまいりたいと考えております。

◎一大／教育問題について

新潟の若者はどんどん学ぶ場を求めて県外に出て行くが、この現状とそもそもの原因はどこにあるとお考えか伺う。

■知事／学ぶ場を求めて県外に出て行くことの現状等についてであります。近年、差し引き6千人を超える若者が進学等により、県外へ流出しております。
このことの背景には、本県には小・中・高・大学と継続する一貫校がないことや、国公立学校偏重の意識が強く、私立学校が本来の特色を出しにくくなっていることなど、この分野なら新潟で学ぼうという特色ある教育が不足していることがあると考えております。
こうしたことから、今後、県内はもちろん県外からも、新潟で学びたいという選ばれる教育を目指して、個を伸ばす教育、個人がもつ能力、個性、興味・関心に応じた教育を選択できる環境を整備していく必要があると考えております。

◎一大／結婚をしなくてもできない、出会いの場がないと考える方への対応として、出会いの場を創出する取り組みへの支援、あるいは県が自ら出会いの場を提供するという取り組みが必要と考えるが、知事の所見を伺う。

■知事／「出会いの場」につきましては、現在、有識者や一般県民からなる検討会を開催しているところであり、市町村や民間等が行う各種事業に対する支援や、地域の世話役が出会いの場を作り出す仕組みづくりを行うなど、県の姿が見えるかたちで積極的に関わるべきとの方向で議論をいただいているところであります。今後、検討会の結果などを踏まえて、事業化に向けた検討を進めてまいりたいと考えております。